

しんさい 震災を乗り越えて

こうべし はんしん あわじ だいしんさい
神戸市では阪神・淡路大震災という大きな災害を経験し、力を合
わせ復興をとげました。同じ経験をした仙台市の小学校との交流も
始まりました。仙台の復興を願い、地域を支える一人としてこれか
ら何を大切にしていけばよいでしょうか。

1 阪神・淡路大震災

1995年（平成7年）1月17日、神戸市のある兵庫県南部で阪神・淡路大震災が起こりました。神戸の小学生もわたしたちと同じようにおそろしい思いをし、大変な苦勞をしました。



地震直後の阪神高速道路



震災の1年8か月後に全線開通

<阪神・淡路大震災と東日本大震災の被害の比較>

	死者(人)	ゆくえ 不明者(人)	ふしょう者(人)
阪神・淡路大震災	6,432	3	43,792
東日本大震災	18,703	2,674	6,220

(平成25年9月現在)

2 神戸と仙台の交流

神戸は、みんなで力を合わせ、現在は世界からもたくさんの観光客が訪れるすばらしい街に復興しています。

夏休みに仙台の岡田小学校6年生が神戸市から招待されました。阪神・淡路大震災のあと、仙台市が神戸の小学生を七夕祭りへ招待し

ていたことがきっかけでした。岡田小学校の児童は、「神戸の街の力強さをこの目に焼きつきたい。」「仙台の小学生として、未来の復興を支える存在になりたい。」とちかいました。



神戸を訪れた岡田小6年生

岡田小学校と神戸の小学校では、ビデオレターやテレビ会議などを通して、そのあとも交流が続いています。神戸で震災後作られ、多くの人に歌いつがれている「しあわせ運べるように」をいっしょに歌い、多くの方に勇気を届けています。



神戸の小学生との交流

「神戸市を訪れた岡田小学校六年生の作文」
神戸は、震災がなかったかのように力強い復興を成しとげていた。授業で見たこわれた道路やビルなど一つもない。まるで別の街だ。ぼくはこんなふうに仙台も復興してほしい、いや、ぼくたちの手で復興させていくんだ、と強く思った。神戸は悲しみからがんばって復興したんだ。いつまでも悲しんではいけない。
「つらいことがあったらいつでもおっちゃんたちに相談するんやで。神戸から応援してるからな。」と、まるで本当の両親のように心配してくれたおっちゃん。感謝の気持ちでいっぱいになった。同じ震災を体験したぼくたちは遠くてもつながっている。神戸の人の優しさから、おたがいに助け合う大切さを学んだ。ぼくも困っている人たちに優しさを伝えることのできる人間になりたい。
神戸の人たちの力強さには、自然が豊かて空気がきれいなふるさとの岡田を取りもどしたい、そう願うようになった。岡田もふくむ宮城をがんばって復興させようと思っただけでなく、強く思った。

? 考えよう

○わたしたちはこのように、多くの地域の多くの方々からたくさん応援をしてもらっています。仙台を支える一人として、復興のためにどんなことができるか考えてみましょう。